

コスト削減進めよう

菌床シイタケで「おいしさ」前面に 全国生産者大会

菌床シイタケ生産者でつくる全国サンマッシュ生産協議会は26日、栃木県日光市で第24回全国大会を開いた。不況の影響で生シイタケ価格が軟調に推移している状況が報告され、生産コストの1層の削減やサンマッシュのブランド推進などで厳しさに対応することを確認した。生産者ら約600人が参加した。

研修会では協議会の森坪清則会長が、生シイタケ販売の現状を報告した。昨年2月から単価が前年同月比で10%ほど下落し、軟調に推移している。ただ、年末から価格

が持ち直し「生シイタケの価値は消費者に認められていく」と強調。今後、ブランド力の強化や、安全で安心できるおいしいきのこ作りの徹底で対応することを提起した。

菌床栽培向けの新品種

として、種菌メーカーで協議会事務局の北研（栃

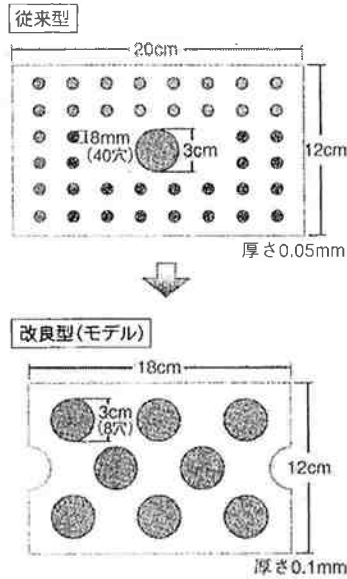
木県壬生町）が「1ー5」を紹介した。形状が良く、大型で肉質の硬いきのこが継続的に発生するのが特徴だ。生育速度が緩やかで、収穫作業を平準化しやすい。栽培試験

を進めており、3月から試験販売する。27日は分科会を開き、各種栽培方法や経営形態、流通・販売業者、消費者へのブランド戦略などを検討する。

2010年 1月28日

(第3種郵便物認可)

シイタケ上面栽培用の
従来型上面シートと改良型上面シート



上面栽培は、ポリエチレン製の栽培袋が菌床の肩口まで掛かった状態にバンドで固定し、袋内部を水に浸して栽培、上面からきのこを発生させる方法。菌の培養期間中は上面に、通気口と発生部を兼ねる穴を開けたポリエチレン製シートを張っておくのがポイントだ。シートは上面部分を保湿して乾燥から防ぐほか「異物との接触部分の菌床から発生しやすい」(同社)シイタケの特性を生かし、短期間には増やす効果がある。従来型の上面シートは、中央部に菌接種用の

大穴(直径3センチ)を開け、その周辺部に小さい穴(直径8ミリ)を40穴開けた。大穴にしたことで、菌床全体に菌接種がしや

シート装着安定性も向上

一方、改良型は大穴(直径3センチ)を8穴設けた。大穴にしたことで、菌床全体に菌接種がしやすくなったほか、菌床との接触面が少なくなっている。発生数は従来型シートより2割ほど減ったが、1個の重さは平均15

シイタケ上面栽培 菌床密度は2倍近くに高め、上面シートを使い、短期間の収穫性を高める方法が北研の特許技術。全国サンマッシュ牛産協議会に所属する2000人余りの会員のうち、8割が上面栽培を導入している。

3センチ8穴が売りに
北研 1個平均15グラムに
来月発売

えいのう 特報
ご意見、ご要望をお寄せください。メールアドレス e-tokuhou@sagrinews.co.jp

種菌メーカーの北研(栃木県壬生町)は、菌床の上からだけシイタケを発生させる「上面栽培」で、改良型上面シートを使った栽培方法を確立した。シートに直径3センチの大穴8個を開け、初回発生の芽数を抑えて大型のシイタケを発生させる。細かな穴を多数開けた従来型シートでの栽培に比べ、菌床1個当たり(5回発生)の発生数は2割ほど減るが、きのこの1個の重さは平均で従来の12グラム(S級)から15グラム(M級)になる。同社は改良型シートを2月から販売する予定だ。

M級 確実 質 そろう

シイタケ

改良上面栽培普及へ



改良型上面シート(旧モデル)を張った状態で培養した菌床



改良型上面シートを取り除き、3番発生を迎えた菌床。バランスの良いシイタケがそろそろ

密集しながら発生して小型化し、きのこの接触で変形果も出やすかった。従来シートは特に初回に密集して発生し、実用栽培では芽かき作業も必要だった。改良型ではM級の高品質きのこが栽培期間中、安定して発生させることができるという。また、改良型シートは厚さを0.05ミリから0.1ミリに引き上げ、袋に入れやすくし、装着安定性も増して作業時に菌床からずれにくくした。同社は事務局を務める全国サンマッシュ牛産協議会の会員に、改良型シートでの上面栽培を普及していき。

菌床シイタケの 低コスト生産へ 北研

北研は、総合きのこ種菌メーカーとして種菌や菌床、生産機材、生産プラントを販売する。

「栽培者が有るから会社が在る」が社是だ。菌床シイタケの生産農家組織である全国サンマッシュ生産協議会の事務局を務め、菌床上面からきのこを発生させる「上面栽培」などの技術提供と、サンマッシュブランドの有利販売を支援する。会員は2200人を超え、菌床シイタケの国内生産で50%のシェアを占めるまでになった。

安全性に疑問符のついた中国産主体の生シイタケ輸入量が減り、国産は増加傾向だ。しかし、デフレ（持続的な物価の下落）の影響で、昨年は販売単価が前年比10～15%落ち込み、農家経営は厳しさが増す。社長の内堀俊幸さん（62）は「販売価



全国サンマッシュ生産協議会の第24回全国大会で、品評会の出品シイタケを紹介する内堀社長（栃木県日光市で）

格が下がっても品質は落とせない。消費者が望む新鮮でおいしく、安心して食べられるシイタケの低コスト生産を支援したい」という。

来年は創立50周年。今秋から最新の種菌製造工場の建設に着手する。「種菌メーカーのライバル社と競いながら菌床シイタケの市場全体を大きくし、シェア50%を維持したい」と高く目標を掲げる。

会社未来図



会社概要＝1961年創業。資本金
3840万円。従業員113人。

本社＝栃木県壬生町駅東町7ノ
3。(電)0282(82)1100。